

普及活動情勢報告（平成30年3月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

「農福連携」就労体験会を開催しました



ミョウガ残渣の運び出し作業を体験

3月11日、高知市大津のミョウガほ場において、「農福連携」就労体験会を開催しました。福祉関係の参加者は22名。6つの福祉事業所等から職員10名と利用者9名が参加してくれました。

4班に分かれた参加者に、ミョウガ栽培終了後の片付け作業を4段階に区切り、全行程を体験して貰いました。アンケートでは「実際に体験して、出来ることがたくさんあることが分かった。」など、前向きな回答が多く得られました。

農業改良普及所は農業側の窓口役となり、企画・連絡・運営に携わりました。来年度も県外視察研修や事例発表会など、関係機関と連携して、農福連携の推進に向け活動していきます。

新規就農者を対象にショウガ研修会を開催



研修の様子

2月27日、新たな人材を求めるために生産部会が作成した産地提案書に基づく研修生1名を含む、就農を予定する3名に対して、高知農業改良普及所でショウガ研修会を開催しました。普及所からは、露地ショウガの栽培方法や病害虫、さらに複式簿記の概要などについて対話形式で講義を行いました。研修会では、「輪作にはどの作物が適しているか」、「農薬の効果的な散布法は？」など様々な質問が出され、活発な情報交換が行われました。次回の研修は、農薬の基礎について行うことになりました。

今後も、普及所は基礎的な栽培技術や農業経営などについて、計画的な研修プログラムに基づき、ショウガの新規就農者を支援していきます。

～鏡むらの店総会 新しい取り組みに向けて～



総会の様子

2月22日に鏡村直販店組合の総会の研修として、新POSデータ分析の報告を行いました。過去5年間のPOSデータを分析すると、野菜の出荷が年々落ち込んでいました。さらに、野菜の売上が落ち込んだ時期にあわせて、客数も大きく落ち込んでいました。一方で、その対策のヒントとして、他の直販所の動向や頑張っている事例も続けて紹介しました。

今後、普及所は、チーム会でこれらを検討しながら、野菜の栽培や販売を伸ばす取り組みをしていきます。

高知市春野地区の新高ナシ農家に重点指導



指導風景

3月5日、高知市春野地区で新高ナシを栽培している就農3年目の生産者他5名を対象に新高ナシの整枝・せん定指導や今後の栽培管理のポイントについて指導を行いました。

5名の園地を巡り、普及員が整枝・せん定し、この枝は切って、この枝は側枝しておく、などを解説しました。また、休眠状態、開花日の予測や受粉時の注意点などを指導しました。生産者から、「今年の休眠状況は?」、「芽の大きさは?」、といった疑問点など熱心に質問がありました。

普及所では、新しい就農者が技術習得を促進できるように、またせん定など実技講習や栽培管理の要点などを指導したり、ベテラン生産者にも有意義な情報を提供し、梨の振興を図っていきます。

販売額1億円を目指して ～JA高知市女性部直販部会総会～



研修会の様子

3月1日、「真心ふぁーむらぶ」を運営している直販部会の総会の研修会として、普及所より県内の直販所の販売状況と直販所活性化セミナーでの取り組みを紹介しました。まず、近年の販売実績が8千万円以上の各店舗の推移を示し、「らぶ」の前年対比がどこよりも伸びていることを紹介。次に、他店の取り組みなども紹介した後、販売額を1億円にするために、まずは個々の販売実績を前年対比105%に設定するよう呼びかけました。

部会員からは、新とさのさとができるけど頑張りたい、1億円が見えてきたなど意欲的な感想が聞かれました。

今後も普及所では、「らぶ」の販売額の多くを占めている加工グループ活動を支援し、全体の販売額アップにつなげて行きます。